

【ようかんすかん】

懐爺にきいた話。

村長の家の応接間に、気味のわるいおやじが無断で坐っていました。

「おまえさんは、だれかのう」

村長がきくと、

「【ようかんすかん】だよ」

「ようするに、おぼけかい」

「ようするに、おぼけだよ」

「ならば、簡単には追い払えんだろうな」

「おれを追い払う手が、ないわけではないだよ」

おぼけ本人がいうせりふではないが、村長はこのさいだから信用することにして、

「ならば、教えてくれんかい」

「おれは【ようかんすかん】だよ。ということは」

「ああ、羊糞好かん。ならば羊糞責めがいいかのう」

「それぞれ、それしかないだよ」

そこで村長は、(日持ちするから) 客用として大量に保存している羊糞を、ぜんぶ【ようかんすかん】に投げつけました。

すると【ようかんすかん】は、

「好かん好かん、羊糞好かん」

とつぶやきつつも、大量の羊糞をぜんぶ平らげてしまいました。

騙(だま)されたと、村長は気づいたがもう手遅れ。

「他に、お帰りいただく術(すべ)はないもんかのう」

ぼやくと、【ようかんすかん】は真面目な声で、

「おれは羊糞を食い尽して、もう充分満足したから、名前を変えることにしただよ」

「どう変えるんかのう」

村長は今度こそその思いでききました。

【ようかんすかん】は益々真面目な声で、

「【おちゃすかん】に変えるだよ」